

---

**この言葉、あなたに届けます。【長文！！】**

Dream Neon

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

この言葉、あなたに届けます。【長文!】

### 【コード】

N8489T

### 【作者名】

Dream Neon

### 【あらすじ】

2010年の終わり頃、『この言葉、あなたに届けます。』を完結。

それらは読者に気軽に触れることが出来た一言の詩でした。今回、無謀な挑戦をします。

『この言葉、あなたに届けます。』で伝えていった一言にもっと多くの言葉をつけて…。

それぞれに物語性があるのでご注意を。

始まり、終わり、永遠（前書き）

第一作目！！

1

## 始まり、終わり、永遠

始まり。始まり。

ここから始まります。

これから始まります。

それは夢のある物語でしょう。

それは辛く険しい道を歩む物語でしょう。

それは未来を変える物語でしょう。

それは今までを思い出せる物語でしょう。

君だけが知る物語。

そしていつか終わりを迎えます。

ハッピーエンド？

バッドエンド？

君だけが知る物語。

終わり。終わり。

ううん。おしまい。

物語はおしまい。

物語は終わり。

始まりを迎えたら、終わりが訪れる。

だけどそれだけじゃなくて

永遠だってきつとあるはず。

物語は終っても  
ずっと、ずっと  
覚えてる。  
忘れないよ。

それが永遠 - - -。

夕日（前書き）

2

## 夕日

夕日が眩しくて

目が痛くて

背を向けた

俯いていた。

ただ歩く。

自分の影が遠くまで伸びている。

でもそれはどこまで伸びているんだろう。

でも、僕はそれを見ない。見る意味もないじゃないか。

夕日が刺す。

背中越しに。

僕は歩く。

闇のほうに。

夕日が刺す。

それは強く。

背中が暖かい。

闇は濃くなる。

僕は立ち止まった。

どれだけ

後ろの夕日は綺麗だろう。

どれだけ

光は僕を照らすのだろう。

でも…

いや、今見ないでどうする

こんなにも闇を濃くするそれがどれだけの光か。

僕は顔を上げた。

ずっと闇ばかり見ていた顔を。

振り返った先に見えたそれは



どれだけ美しいかなんて表現できないくらいで

いつの間にか頬に雫を落としていた。

眩しすぎるとか、

目が痛いとか、

そんなことじゃなくて

逃げていただけ。

光を浴びて良いような人間じゃないから

逃げた。

逃げ出した。

影の方。

闇の奥。

だけど止まった僕の足。

今しか出来ないことがある。  
後悔はしたくないから。

また歩き出せるような気がした。

次は光の方へ。

また いつか

俯いてしまうことがあるだろう。

それでも、振り返ればいい。

前を向けばいい。

光へ向かえばいい。

俯いてしまってもいいから。

また、前を向こう。

夕日が暖かく見守ってくれている気がした。

今の時間を(前書き)

3

## 今の時間を

いつか生まれ落ちた

この世界に

この場所で

この方から

心の臓が動きはじめた。

それから

嬉しいこと

怒ったこと

哀しいこと

楽ししたこと

繰り返して

生きてきた

…  
これまで。

いぢ

きつと  
これからも  
∴。

喜怒哀楽を  
繰り返して  
生きて行く

ううん、違う  
生きて行こう

決心、決意、決断

後何年、何十年  
生きられるか、なんて  
それは誰にも、誰でも  
わからないから。

今の時間を  
今しかない時間を

自分の人生  
大切にしよう  
大切に生きよう。

今の時間を（後書き）

お、2000字になった…。

わん、よ。(短歌)

4

やっ、よ。

いつも何もしていないでいる自分。

目の前のことを思うとなんだか面倒で。

考えただけでいやになるような。

だからやらない。

やる気がない。

だから手を付けない。

最初からしない。

だけど、やらなくちゃいけない。

本当に面倒。大変。

そう思うんだけど。

仕方がない。

やりますか。

出来ないことじゃない。

やれば出来ること。

それなのにやろうとしない。



いつかはやらないといけないんだけどね。

だから今終わらせてしまおう。

後でやるのも面倒だ。

だって、自分ができることだから。

やれば、出来るんだから。

ああ、でも。

本当に出来ないことがあったら、  
とりあえず君に教えてもらうよ。

またいつか(前書き)

5

またいつか

友よ。

愛する人よ。

楽しい時を

嬉しい時を

ありがとう。

別れの時。

こぼれ落ちる涙。

哀しいよ。

淋しいよ。

だって、離れてしまっただから。

皆別の道に行く。

それぞれの道を進む。

人生。

出会いあって。

別れがあつて。

こんな友に

こんな愛する人に

出会えた奇跡。

大切な友情。

大事な愛情。

だから

また会おう

また集まり

また泣いて

また叫んで

また笑おう

あのいつかのように。

さよならは言わないよ。

永遠の別れじゃないから。

遠くにはなれていても。

きつとまた会える。

きつといつか逢える。

しっかりと学ぶ(前書き)

6

しっかりしろよ

俺の夢

俺の目標

目指していたのに

立ち向かえなくなってしまった

俺のせい？

誰のせい？

もう

疲れたよ。

信じていた。

信じていたかった。

ただそれだけなんだ。

地に落ちた涙を見て 思った。

こんなにも弱かったか？

俺の心は

夢のために

目標のために

あんなにも必死だった自分が  
あんなにも前を見ていたのが。

今は何だ。

立ち向かえなくなっただけで  
裏切られただけで

すぐ脱落か。

なあ…

しっかりしろよっ。

もう一度立ち上がればいいじゃないか。  
そして信じればいいじゃないか。

ずっとくよくよしてるのは  
俺らしくないからな！

君と花と\*幸せ満開(前書き)

7



あるとき\*ある所に  
一つの種\*植えた。

あるとき\*ある人に  
出会った\*運命かな

あるとき\*あの種が  
芽を出し\*双葉まで  
成長して\*元気元気

あるとき\*あの人  
がこの私と\*お話を。  
気が合い\*ついつい  
長話して\*笑ったの

日が熱く\*葉っぱが  
焼けそう\*あの双葉  
成長まで\*疲れたり  
まだかな\*まだかな

あるとき\*あの人に  
言われた\*ハッキリ  
好きだよ\*好きだよ  
いつしか\*花咲いた

あるとき\*それから  
君と一緒に\*歩く速さ  
合わせて\*一緒だね

咲いた花\*増えてた

好きだよ\*君の言葉  
大好きよ\*君に送る  
花は満開\*色鮮やか  
全部全部\*私の感情

それから\*そのあと  
幸せ笑顔\*たくさん  
花の香り\*恋の香り  
笑顔が花\*君が言う

それから\*これから  
枯れた花\*それでも  
枯れない\*この愛は  
来年もね\*植えるよ

また成長\*楽しみで  
待ってる\*君と共に  
ねえ一言\*いいかな

\*ありがとう\*

君と花と\*幸せ満開(後書き)

ひえ〜！文字合わせるのって大変っ！！  
真ん中の\* は花を表現してみました。

さー次行ってみよー！

同じ空の下（前書き）

8

## 同じ空の下

初めまして  
こんにちは

私もあなたと同じ  
空の下で過ごす  
ちっぽけな存在です。

空が大きすぎるから  
こんなにも  
自分は小さく感じてしまっんです。

空は広すぎて  
こんなにも  
自分の見る空は小さいんだと思っってしまうんです。

でも空は広いんだと思います。  
私が見ている空とあなたの見ている空を  
繋ぎ合わせれば ほら  
世界は大きくなるんです。

手を伸ばすことは出来ません。  
でも想いを届けることは出来ます。

ただ祈ることしか出来ませんが。  
笑っていてください。  
それはちっぽけな願いです。

でも笑っていて欲しいんです。

同じ空の下で生きるものとして。



## 光輝け

いつからだろう。

闇の中にいたんだ。

真っ暗で地はあるのか

どこかに行き止まりはあるのか

手をゆっくり振り回して確認するけど

何もなくて。

だけど此処は少し寒い。

かといって暖める物もない。

寒い。何もないのが怖い。

どうすれば此処を出られる？

出口はある？

君は光を信じているだろう？

いや、信じることも出来るだろう？

声が聞こえた。

誰の声かも分からないけど。

光を信じる？

信じることも出来る？

信じれば此処から出られる？



なら

信じるよ。

光、  
輝け

…。

光輝け（後書き）

真上から光が一点光り出した。  
その先が出口だろうか？

あの言葉(前書き)

10

## あの言葉

何も出来ない、役立たずな自分。  
生きているだけの人間。

なら作られた道具の方がまだ使える。  
だから“感謝”なんて知らなかった。

そう思ってた。

……シクシク、シクシク

泣いている音が、聞こえた。

探してみれば泣いているのは

しゃがみ込んでいる小さな子供。

でも、その子は泣いていなかった。

頬に涙なんて流れていなかったから。

それでも、聞こえたんだ、泣いてる声。

ああ、分かった。泣いているのは

この子のココロだ。

でも、何も出来ない。

何をしているのか分からなかった。

だから、ただ傍にいたんだ。

隣にいてあげた。

何もできない、何の役にも立たない自分は  
こんな事しか出来なかった。

すると、子供が泣き出した。  
自分のしたことは間違っただらうか。  
分からず、そっと頭を撫でれば

「ありがとう……」

頬には涙を落とし、小さな声でそう言った。  
何度も、何度も言った。

急にココロが熱くなった。

おかしいな。なんで私まで……？

頬を濡らした雫。

あの言葉が、

ココロを熱くさせるなんて知らなかったよ。

あの言葉で、

涙が落ちるなんて知らなかったよ。

『ありがとう』

その一言であなたは泣いたことがありますか？

**S o s c o ( 司 公 有 限 )**

1  
1

## S o u n d

)

両耳に付けたイヤホン。

流れるのは、音響<sup>サウンド</sup>

口ずさむその音は

体を踊らせて

心を跳ねさせる。

唄が聞こえれば

同じ唄を歌う。

半音上げで聞く音響は

いつもと違って

また面白くって。

また体と心が踊り跳ねる。

流れる音響は

自分だけの世界。

その時その時

広がる世界は変わるんだ。

輝いたり

弾けたり

暗かったり

光が見えたり

止まっていたり

静かな世界に入る音響は  
心を体を癒すんだ。

自分だけが見る音響世界。  
今日はどんな世界を見ようかな。

)



吾と(前書を)

1  
2

## 君と

君と出会った。

君と話をしたんだ。

君と気があった。

君といて楽しいんだ。

君との話は絶えないから。

君といて嬉しいんだ。

君と目が合うと鼓動が鳴る。

君といて悲しいんだ。

君との想いは同じかな。

君といて苦しいんだ。

君との思い出が胸に焼き付くから。

君と笑ったんだ。

君と泣いたんだ。

君と居たい。

君と歩みたい。

君と手を繋ぎたい。

君と抱きしめあいたい。

君と泣きたい。

君と笑いたい。

君と一緒に。

君とこれからも

君とずっと。

君が大好き。



笑おう。笑おう。  
楽しいときには  
思いつきり。

笑って。笑って。  
悲しい顔なんて  
似合わないよ。

本当に苦しいとき。  
無理に笑ってなんて  
言わないよ。

だけど、思いつきり笑ってみて？  
一度でいいから  
その苦しみさえも  
忘れてしまえるくらい。

何もかも、バカらしくなるくらい。  
大声で笑ってみて。  
苦しみの種は思ったより  
小さいかもしれないじゃん。

笑おう。笑おう。  
涙が出るくらい。  
笑って。笑って。  
頬が張ってしまつくらい。

この世界に生きる

全ての人と生き物と

笑い会えたら素敵なんだろうな。

笑おう。笑おう。

笑って。笑って。

そう、いつまでも

……。

順番(前書き)

1  
4

## 順番

信じるんだ自分を。

自分の 考えも。

思いも 言葉も。

行動も 願いも。

信じられないなら

人を信じることなんか

出来やしないんだ。

自分の 考えが

思いが 言葉が

行動が 願いが

正解なんて、分からないけれど

だからといって

曖昧なままでいたって

何も始まらないんだ。

そんなんで

人を信じたって

何の役にも立たないんだ。

だから

自分に自信を持って

自分を信じて。



そうして初めて  
人を信じる事が出来るんだよ。

信じる人の順番を

絶対に間違っちゃいけない。

まずは自分から。

立ち向かえ(前書き)

15

## 立ち向かえ

どんなことがあっても  
負けちゃいけないときがある。

誰かを守るためなら  
それは尚更だ。

立ち向かうには勇気がいる。

ただ一心に守りたいと強く願い  
立ち向かっていかなければ  
誰かを守る事なんて出来やしない。

何故、それは自分なのか。  
他の人でもいいじゃないか。

仲間がいれば心強い。  
だけど自分一人だったら  
守れるのは自分だけなんだ。

見捨てるなんて、  
裏切るようなことはするな。

目の前で助けを求める者を  
自分の手で守れ。

だから負けるな。  
何があっても立ち向かって行け。



また明日(前書き)

1  
6

## また明日

手を高く上げて、大きく降る。  
大きな声と、万遍の笑みで。

私は影のほうへ

君は夕日のほうへ

バイバイ

バイバイ

背を向けて走り出す、だけど振り返る  
君が夕日の影で顔は見づらいな。  
でも笑ってるのがわかるよ。

バイバイ

バイバイ

赤紫の空も、橙の夕日も見てる。  
そして、遠く離れてまた振り返る。

たくさんたくさん空気を吸い込んで  
大きな大きな声で言うんだ。

また明日!!

また明日会おうっていう約束。

また君に会うための大切な約束。

また明日!!

どう触れあえば

寂しいんだ。

一人でいるのが。

ただ一人そこに立っているだけ。  
人々は流れていく。

誰も気付いてくれないの？

誰も見てはくれないの？

違う。

寂しいなんて

自分勝手な想像だ。

周りにはたくさんの方がいるのに。

自分と合わないからって突き放したのは  
自分じゃないか。

誰もが違って当たり前と十人十色。

そんなこと今更気付くなんて。

でも 自分からどう人と

触れあえばいいのか



どうすれば自分と違う感情を持つ人と  
分かり合えるのか

わからないから

教えて……………

どう触れあえば(後書き)

たまにあるんです。

私にはこういふこと( ^ | ^ )  
( ; )

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8489t/>

---

この言葉、あなたに届けます。【長文！！】

2012年1月6日17時54分発行